

を掲記し後世の爲參考に資せんとす

### 1. 戰術思想

主觀が勝ち客觀が歛<sup>ひ</sup>判斷決心計畫等獨り角力となる傾向あり戰術は術策本位にして基本的原理原則の把握的確ならず且戰力認識に對する努力に不足す物的戰力にして精神力に依存し術策の效果に期待せざるを得ざる國軍の實際上斯くなれば自然の勢ひなりと雖又反面ととさらしに計數を疎し損害打算を排するを以て潔しとし主觀信念戰術を喜びし國軍將校間の一般的氣風に由來するところ尠からず

### 2. 戰術能力

前述の如き缺點を有する戰術思想に増はれ然も青年將校時代學校を卒業して後は殆眞剣に用兵に關する研究を爲さざる傾向ある上中層部將校の戰術能力は遺憾ながら不十分なり勿論多年に亘る實戰經驗や平素の演習訓練に依り統帥指揮の事務的方面に於ては殆同然なるところなかりしも用兵能力の基礎を爲す

洞察力綜合判斷力及意志力に缺けるところ多く殊に誤る戰術思想に基く教育に依り習得せる戰術形式を以て一切に對處せんとする形式主義の顯著なりしは用兵能力未熟の證據なり軍主力が悲惨なる攻勢を實施するの止むを得ざるに至り一切の經緯並に沖繩作戰の準備の過程を検討せば國軍の戰術思想並に國軍上中層部將校の戰術能力は傾向短所は最明瞭に窺し得べし

### 3. 統卒指揮

總て我が國に於ては軍隊のみならず一般社會に於ても人の長となる者は所謂西郷、大山型を以て良しとする傾向あり知的であるよりは感情的である我が國民を統卒指揮する爲には自然に斯る指導者型を必要とするに至りしならん然れども斯る傳統の度を過ぐるところ上級者は修養研讀を怠り無能者となるか或は故意にロボットとなり經驗修養未熟なる下級若年者が實權を握り大勢を定め大事を決し一軍一隊は勿論國家をも庇<sup>ひ</sup>ぼすに至る一因を爲せり

#### 女性 性格

日本人の性格は一言にして謂へば弱し日本人は一見強きが如きも其の強さは感情的衝動的一時的のものにして其の結果は何時しか方針目的を忘れて脱線し暴虎馮河の勇となり未稍に熱中し局所に抱泥すに至る英米人は飽く迄冷靜知的にして方針目的を忘れず利害打算を失せず頗る意志的なるに比し極めて對照的なり自己の基  
本任務と最後の運命を認識覺悟して戰略持久の一線に其の努力を傾注す精神的重壓に堪へずして攻勢を欲し更に運命の打開を望みて妄動するが如き或は陣地に乘て後に挺身斬込を欲するが如き或は尙戰鬥力を有するに拘はらず自殺するが如き精神力の未だ眞に強力ならざるを語るものなり

#### 徳性

性格の弱さに關聯し日本人の徳性は一應外面を美しく整ふることに巧みなるも自主自律性弱く傳統慣習の奴隸となるか或は世論世評人の手前若は軍規軍律の爲止むを得ず本心に反して行動する傾

向強し従つて人が見て居らず傳統世評軍規等に口實がつくか或はつけ得る場合には私己中心の行動を取るもの尠からず日本軍（人）の心理を最悪魔的に曝露せば捕虜にはなりたかない勿論更に死にたくない敢然敵と戦ふのが目的でなく上記の目的を達する如く行爲する爲なり、従つてニューギニア、比島の如き大陸的なき島では廣大な密林山嶽地帯を逃げ廻り戦つて死するものより病氣と饑餓で徒に死するものが幾倍かに達する沖繩の如き島では一部は洞窟内に逼塞し他の一部は山地若は住民中に逃入する更に小なる島では右往左往彷徨の間全滅する勿論中央權力の地位に在るか若は之に繋りの有る者は斯かる地帯に赴任せず在任して居ても危険迫れば安全地に轉任する頗る皮肉なる觀察なるも以上の如く弱くして然も狡猾なる性格の日本人の徳性は偽善主義か若は他律的臭味と強き者尠からず本心より發する自主自發的な強力潑刺たる行爲に出づる者多からず

眞の戦力は羊や狐の如き集小團には存在せざることを知るべきなり

其の九 戦闘成績

軍の戦闘成績は其の任務より觀察するを要す軍任務は戦略持久換言せば次に來るべき本土決戦を有利ならしむるに在りこれが爲には  
本土攻略の爲敵の基地たるべき沖縄島を勉めて永く敵手に委せざること

2. 成るべく多くの敵陸海空軍を牽制抑留し且之に勉めて多くの出血消耗を強要することの二件を如何なる程度實行したるや検討せざるべからず

(1)に關しては昭和二十年三月二十三日より同六月二十二日頃迄本格的戦闘を繼續し爾後終戦直後頃迄殘存部隊は遊撃戦を續行す即ち眞の意味の持久期間は約三ヶ月なり別に具体的持久期間に關して命を受けあらざる軍として此の三ヶ月が本土決戦準備の爲如何程度貢獻せしや彼此論斷し得ざるところなり  
参考の爲大臣總長よりの最後の電文中の一節を掲記し置かん  
「貴軍の忠誠勇武に依り敵を本土に激撃の準備は完整せり」

東京小冊物

陸軍

(2)に關しては沖縄作戦に参加せし敵兵力は

海空軍 米太平洋艦隊の殆ど全方

英極東艦隊

地上兵力 米第十軍第二十四軍團

第七、第二十七、第七十七、第九十六師團

海兵第三軍團

海歩第一、第二師團

海兵第六師團(全方有力なる一部)

約七ヶ師團

總員十五万

敵の損害は

海上戦死五千戦傷五千

(二割は特攻以外の損害) 合計 四万七千

陸上戦死一万戦傷二万七千

艦船撃破二二三隻 撃沈三五隻 撃沈破 總計 二五八隻

其の他敵の物資的消耗は甚大なり

参考の爲第十方面軍司令官の第三十二軍司令官に授與せる感狀

文の一節を引用す

「敵海上勢力を牽制し我が航空作戦の戦果獲得に寄與せし處亦大なり」

以上戦術成績を觀察するには更に我が軍の兵力素質の作戦準備期間島の廣狹地形等の諸條件を検討し且軍の作戦に影響を及せる外力をも考慮する要あり

我が軍の兵力素質は

第二十四師團（各獨立部隊は各々三分一兵力を缺如し本土兵は約一万二千）第六十二師團（混成旅團二ヶ編合せしものにして砲兵を有せず本土兵約八千）

獨立混成第四十四旅團

（第二歩兵隊は素質劣悪臨編部隊

獨混十五聯隊は比較的精銳なるも編部隊

本土兵約四千

野重第一（一大隊欠）第二十三聯隊

軍砲兵隊

重砲第百大隊

輕迫撃二ヶ大隊は臨編部隊にして彈藥一門平均僅に三百發なり

精銳なるも保有彈藥僅に八百發分なり 本土兵約五千

陸軍

東京小津街

以上我が軍の兵力は二箇師團と一旅團並に軍砲兵隊を基幹とするものにして眞の地上戦術部隊の人員は約四万に過ぎず

戦術參加總人員約十万中右の外は殆ど戦術訓練も古且應急裝備せられたる部隊人員にして然も大部約三万五千は戦術直前軍に入れる沖繩出身の防衛召集者及初年兵なり

2. 作戦準備期間は

軍の沖繩に創治せられたるは昭和十九年三月主要兵團の到着せるは同年八月なるも既述の如き経緯に依り眞の作戦準備期間は昭和二十年一月以降の約三ヶ月に過ぎず

3. 島の廣狹地形は

沖繩島は縦長（南北）約百三十軒巾員（東西）平均十數軒にして用兵上地域廣大且防禦至難なる形状の島嶼なり特に確保を要すべき地域たる島の南半部（島尻國頭兩郡）並に伊江島本部半島地區の爲には有ゆる作戦上の諸要件を考察判断し最少限六箇師團を必要とせり然るに實際の兵力は二箇師團半にして任務に適合せざる

こと甚しきは明瞭なり斯くて島嶋防禦の要訣たる敵を其の上陸時に於て撃滅する万全の防禦配備を採る能はざりしなり

4

軍の十

軍の作戰に影響を及せる外力

軍の戰略持久戰に根本的致命的悪影響を及せる外力は既に屢々述べ

る如く中央統帥部の「攻勢強要」なり

若し此の強要なかりせば第三十三軍の沖繩戰闘史は更に一段の光彩を加へたるならん尙右の外全軍將兵の心理に強く作用せるものは「沖繩敗るれば日本の前途は滅亡」の予想が首里戰線後退の頃より「沖繩は敗れたり祖國の前途は明に絶望」の認識となり此の認識が殘存將歩の間に支配的となれることなり

沖繩戰以前の大平洋上各戰闘に於ては譬へ各守備隊は全滅すとも尙彼等は祖國最後の勝利を夢み得る死に甲斐を有したるに反し作戰末期に於ける我が將兵の心情や察するに餘ありと謂ふべし以上綜合判斷し全軍將兵が三ヶ月の永きに亘り悲惨なる條件下一日の間斷なく敵と組織ある激闘を續けたる其の戰闘振りと戰果は古今東西に不朽

陸軍

東京小冊

の業績と斷言して憚からざるところなり凡そ作戰の成績は希望的理想のみを以て批判すべからずや必ずや其の作戰の基礎を爲前述の如き諸條件を慎重審議したる後に於て爲すべく更に數歩を進め幾多の戰史と比較對照することに依り初めて當らずと雖遠からざる地位を決定し得るものなり

最後に我が國軍が國運を培する決戦と稱し其の主力を傾倒して戦へる比島作戰の成果の一部を掲記して参考の一助とせん  
本數字は概ね確實と信ぜらるゝ米軍側の發表にして比島作戰上の諸要件を検討したる後論議すべきは勿論なり

米軍

日本軍

參加兵團數 十七箇師團

二十三箇師團

總人員 二十五万

四十万

損害 戦死一万二千

計五万四千

戦死四十一万

別紙第一

感狀

牛島部隊

同配屬部隊

右は陸軍中將牛島滿の統率の下三月二十五日以降沖繩島に上陸せる敵に對し熾烈なる砲撃下孤立せる離島に決死勇戦すること三閱月此の間克く部隊の精強を發揮し隨處に敵を撃攘して之に甚大なる損耗を強要し以て中外に皇軍の武威を宣揚せしのみならず敵海上勢力を牽制し我が航空作戦の戦果獲得に寄與せる所亦大なり

是れ牛島中將統率下舉軍一体盡忠の誠を致し訓練の精華を遺憾なく發揮せるものにして其の善謀敢闘は眞く全軍の龜鑑たり仍て茲に感狀を授與す

昭和二十年六月十九日

南西方面軍最高指揮官

在沖繩本島(含本島周邊小島)部隊一覽表

轉用地	部隊固有名	部隊通稱號	轉用年月日
西部軍	第三十二軍司令部	球 一六一六	一九二五
東部軍	第三十二軍防衛築城隊	一六一六	一九二一三
關東軍	第三十二軍集成自動車隊	一六一六	
	第三十二軍舟艇班	一六一六	
西部軍	第三十二軍兵器勤務隊	一二五一八	一九二五三
關東軍	第三十二野戰貨物廠	一八八一	二〇二四
關東軍	第三十二野戰兵器廠	一八八一	二〇二四
西部軍	要塞建築勤務第六中隊	二七七四	一九三二四
西部軍	要塞建築勤務第七中隊	二七七五	一九三二四
	第二野戰築城隊	一〇一五八	一九二七六
	第四九兵站地區隊本部	五八九六	一九二七六
	陸上勤務第八三中隊	七八〇七	一九二七六

中部軍	野戰高射砲第七九大隊	〃	二一七二	一九七〇
	第二一野戰高射砲隊司令部	〃	一二五四五	一九八一七
	機關砲第一〇五大隊	〃	一二五二六	一九七一〇
	機關砲第一〇四大隊	〃	一二四二七	一九八一〇
	機關砲第一〇三大隊	〃	二一七七	一九八一〇
	獨立速射砲第三二中隊	〃	一四七九	
	獨立速射砲第二三中隊	〃	一三二二三	一九六一〇
	獨立速射砲第二二大隊	〃	一五五七六	一九七二一
西部軍	獨立速射砲第七大隊	〃	六七五〇	一九七二二
	獨立速射砲第三大隊	〃	六四〇三	一九七二二
	獨立機關銃第一七大隊	〃	五二四七	一九七二一
	獨立機關銃第一四大隊	〃	一八八〇九	一九七二一
	獨立機關銃第四大隊	〃	一〇二九〇	一八六二六
	獨立機關銃第三大隊	〃	六〇九〇	一八六二六

關東軍	戰車第二七聯隊	〃	一二一〇二	一九七二一
中部軍	獨立工兵第六八聯隊	〃	一〇二七九	一九七二一
現地？	電信第三六聯隊	〃	一八八三〇	二〇、三、二〇
	獨立自動車第二五九中隊	〃	六〇五八	一九七六
	獨立自動車第二一五中隊	〃	五八七九	一九七六
	野戰作井第二〇中隊	〃	一八八一〇	一九九二〇
關東軍	野戰作井第一四中隊	〃	四六四九	一六、七、一六
中部軍	第二七野戰防疫給水部	〃	五七五三	一八、三、八
現地	特設警備工兵第五〇四中隊	〃	一八八一八	一九一、四
現地	特設警備工兵第五〇三中隊	〃	一八八一七	一九一、四
現地	特設警備工兵第五〇二中隊	〃	一八八一六	一九一、四
現地	特設警備第二二五中隊	〃	七〇八〇	一九一、四
現地	特設警備第二二四中隊	〃	七〇七九	一九一、四
現地	特設警備第二二三中隊	〃	七〇七八	一九一、四

軍

東京小津